

高月中だより

学校教育目標 『より良い自分を求め、自立できる生徒』の育成
学校生活スローガン 切磋琢磨(厳しさと優しさ)

No.2 平成30年4月24日(火)

長浜市高月町高月 2491 番地 1

電話：0749-85-2020

FAX：0749-85-2259

takatsuki-ms @ nagahama.ed.jp

文責 別府 清和



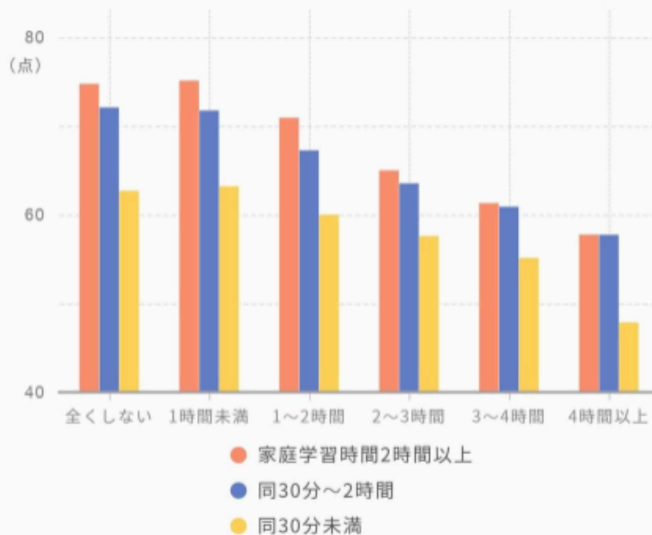
新年度となり、早1ヶ月が過ぎようとしています。
高月中の生徒達の元気で明るく誠実な態度に、日々感動し、同時に保護者の皆様のご協力に大変感謝をしている次第です。
さて、5月1日からは家庭訪問を実施させていただきます。お世話になりますが、よろしくお願ひいたします。また、今週末からいわゆる「ゴールデンウィーク」を迎えます。それぞれに計画を立て、規則正しい生活が送れますよう、ご家庭におかれましても、ご指導の程を重ねてお願ひいたします。

昨年の内閣府の調査で、中学生のスマートフォン保有率が5割を超えたと報じられました。中学生のスマホデビューは、高校生や小学生にスマホを持たせるより、一番、気を遣う時かもしれません。気を遣わなければならないと考えた方がよい年齢かもしれません。

中学生くらいになれば、最初の何日間かは、使い方に戸惑うこともあるかもしれませんが、後は、加速度的に使いこなすようになります。保護者の方が考えている以上に使い方については、情報を得て賢くなっていきます。しかし、ネットに潜む危険性を自分で認知するようなことは、ほぼないと考えておいた方がよいかもしれません。それ故にスマートフォンの使用については、各ご家庭でルール作り等をお考えいただきたいと思います。

■ スマホの使用時間と数学のテスト結果の関係

勉強時間が長くてもスマホの使用で学力は低下



しない生徒達のデータです。この生徒達は学校の授業でのみ勉強をしていることとなります。そのような生徒達が、スマホを1時間以上使用すると、使用時間の長さに比例して点数が低くなっていきます。スマホを使用したことによって、学校で学んで得た記憶さえもが消えている可能性があるのです。

この調査は、東北大学が仙台市教育委員会と共同で行っている「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」の一環で行われたもので、同プロジェクトは、子ども達の学習意欲をどのようにして向上させることができるかを、脳科学、認知科学、心理学の側面から明らかにしようとするものです。2010年より継続して活動を行っており、毎年7万人以上の市立小・中・高校に通う児童・生徒全員のデータの解析した結果、裏面のような結論が得られました。

さらに、こんな事実があることをご存じでしょうか。左のグラフは、宮城県仙台市の公立中学校に通う2万2390人が受けた数学の試験結果と、平日の家庭での学習時間の長さ、平日のスマートフォン等の使用時間の関係を示したものです。家庭での勉強時間が同じでも、スマホを使用する時間が長いほど成績が下がることがわかります。

また、家庭で毎日2時間以上勉強をしても、スマホを3時間以上使用すると、勉強をほぼしない生徒(スマホは使用しない)よりも成績が低くなっています。スマホを3時間以上使用すると、2時間を超える勉強の努力が消えてしまったこととなります。

さらに深刻なのは、ほぼ家庭で勉強を

- ①スマホ等を使用しないと良い成績が向上していく
- ②スマホ等を使用し続けると悪い成績がさらに悪くなる
- ③スマホ等の使用を開始すると良かった成績が低下する
- ④逆に使用を止めると成績が向上する

特に、LINE に代表されるインスタントメッセージの使用が、最も学力低下への影響が強いことが分かったそうです。偏差値が LINE 等をまったく使わない群が 50.8 だったのに対し、1 時間未満の群は 50.2、同 1～2 時間は 47.7、同 2～3 時間は 45.1、同 3～4 時間の群は 43.0、そして同 4 時間以上は 40.6 となり、インスタントメッセージの使用の有無で、偏差値で 10 以上の差が出る結果となりました。単純に考えると、インスタントメッセージを使わなければ偏差値が 10 上がるという見方もできてしまいます。

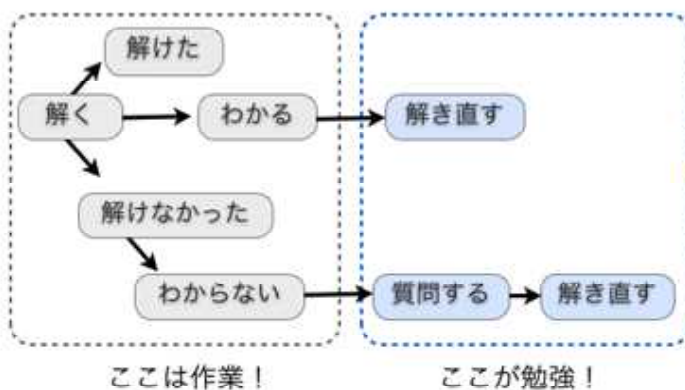
ヒトは弱い生き物です。スマホ等を持ってしまったら、いけないなと思っても、勉強中にゲームで遊んでしまったり、SNS を利用してしまいます。こうしたメディア・マルチタスキングの学力への影響は大変シビアだということが同プロジェクトで明らかになりました。

これは「ながら勉強」の弊害です。ゲームに限らず、学習中に音楽を聴いても、LINE 等を操作しても、成績は大きく低下します。また、操作するアプリの数が多ければ多いほど、成績が低下することも判明しています。

ただ、このネガティブな影響は、全ての年代の方々にあてはまることもまた事実です。中学生だけでなく、「我々大人も当てはまる」ということを心しておきたいと思います。

※東洋経済オンラインの記事を参照しました

「作業」と「勉強」の違い 「作業」だけでは力はつきません



私たちは、子供が「机に向かっている」と「勉強している」と思います。実際はほかの考え事に思いをはせていたり、ただぼ～っとしていることもあるかもしれません。外からは分かりませんが、「勉強していた」かどうかは、本人は分かっているはずで、ですから、明らかに勉強時間が少ない（または無い）のであれば勉強時間を増やせばいいだけのことで、実は大した問題ではありません。

一番困るのは、お子様本人が「勉強」と「作業」の区別がつかない、区別をしていない場合です。

「〇〇のまとめ」・・・大部分は「作業」です。

「教科書をよく読んで何が書いてあるか頭に入れる」・・・これは試験前、授業前の予習段階のことなので勉強の「準備」なんです。

「教科書の問題や問題集の問題を解く」・・・一回目は、「できる」「できない」を分別する「作業」二回目からが「勉強」です。

「勉強とは、できる できない を分別し、できない部分をできるようにする」ことを指します。

つまり「確認に再度問題を解く」までしなければならないということです。ここまでするのは慣れないと大変です、大変だからこそ、多くの生徒はその前段階の「作業」で終わってしまうのです。

この GW を「作業」で終わらせないように、しっかり「勉強」に取り組んでほしいと思います。